

5章 維持管理・運営計画

(1) 想定される事業手法

道の駅の整備・管理運営手法としては、市が施設を整備し管理運営も行う「公設公営」方式や、市で施設を整備し民間が管理運営する「公設民営」方式、民間が施設を整備し管理運営を行う「民設民営」方式があります。

道の駅は、道路利用者の利便性の確保や地域住民の交流促進による地域振興などの公益的な役割を担うとともに、物産販売所や飲食施設などの収益事業を行う場でもあるため、「公益性」と「収益性」の両方の側面を併せ持っています。また、一年を通して多くの方が訪れる集客施設でもあることから、さまざまなサービスの提供やイベント企画などによるにぎわいの創出が求められます。このようなにぎわいの創出や収益事業の展開、多様なサービス提供には民間事業者が有するノウハウの活用が有効です。

そこで、この道の駅における整備・管理運営手法については、民間ノウハウを導入することを目的に、市が施設を整備し民間が管理運営を行う「公設民営」方式を念頭に、今後、民間事業者等との対話を重ねながら最適な事業手法を検討していきます。

表：想定される事業手法の概要一覧

	公設公営 (直営方式)	公設民営		民設民営 (PFI方式)
		(指定管理者方式)	(DBO方式)	
概要	<ul style="list-style-type: none"> 市が資金調達から施設整備、管理運営まで実施 	<ul style="list-style-type: none"> 市が資金調達を行い、施設を整備 管理運営を民間事業者に委託 	<ul style="list-style-type: none"> 市が資金調達を行う 施設整備と管理運営を民間事業者に委託 	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者が資金調達から施設整備、管理運営まで実施
整備主体	市	市	市	民間
運営主体	市（一部民間委託も有）	民間	民間	民間
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 管理運営責任が明確であり、行政施策との連携も図りやすい 行政目的が直接反映できる 柔軟な雇用形態が難しく、施設運営のノウハウも少ないことから、事業拡大による収益確保は困難 公的な立場から判断するため、利用者ニーズへの対応の遅れや、多様な取組みがしづらい可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者のノウハウを活用することで、サービスの質が上がり、管理運営等のコストが下がる可能性は高い 契約期間を定めるため、期間ごとに公共の政策的な変更に対応が可能 設計・施工・管理運営の事業者を個別で選定するため、一貫性の担保は困難 長期的展望に立った継続的な取組みや安定経営に課題 	<ul style="list-style-type: none"> 設計・建設・管理運営の業務を一括で発注し、性能を満たせば細かな手法は問わない性能発注方式のため、設計段階から建設・管理運営を考慮した事業計画が期待できる 10～20年程度の長期の事業期間が設定可能であり、指定管理者制度よりも事業継続性が高い 施策変更があった場合、建設・運営への反映が難しい 事業者の応募、選定、決定等に時間を要する 	<ul style="list-style-type: none"> 設計・建設・管理運営の業務を一括で発注し、性能を満たせば細かな手法は問わない性能発注方式のため、設計段階から建設・管理運営を考慮した事業計画が期待できる SPC（特定目的会社）を立ち上げるため、各会社の運営リスクと切り分けた運営が可能 他手法に比べ、民間事業者のノウハウを活用する余地が最大 施策変更があった場合、建設・運営への反映が難しい 事業者の応募、選定、決定等に時間を要する

(2) 維持管理計画

観光客や地域住民が定期的に訪れたいくなるよう、安全・安心に利用いただけることを前提とした、維持管理体制を構築するための方針を位置づけます。

大方針

安全・安心を第一とした、快適な空間と心地よいサービスの提供を図る。

【実現に向けた考え方】

1 来訪者の快適で心地よい利用を促進するための効果的な実施体制の構築

- ・ 事業実施体制においては、業務内容に応じた適切な人員配置を行います。
- ・ 利用者状況や繁閑に応じ人員配置の柔軟な調整を行い、サービスの質の向上を図ります。

2 確実かつ効果的な日常・定期点検の実行

- ・ 日常点検では、チェックリストを作成し、これに基づいた点検を確実にを行い、不具合の早期発見に努めます。
- ・ 定期点検（法定点検）では、年間の作業計画を作成し、これを確実に実施します。不具合がある場合は記録フォーマットへ確実に記録を残すことで、今後の点検・保全へと活用します。

(3) 運営計画

道の駅における高質なサービス提供においては、観光客や地域住民の声を反映させた運営が必要です。さまざまな関係者と連携し、効果的な運営を進めていきます。

大方針

観光客・地域住民の声を真摯に受け止め、地域と一体となった運営を図る。

【実現に向けた考え方】

1 民間事業者等の運営ノウハウの効果的な活用

- ・道の駅は、多様なサービスと収益要素が含まれているため、民間事業者等の運営ノウハウを効果的に活用し、サービス向上や収益の確保による持続的かつ安定的な運営を目指します。

2 地域住民や地元事業者等の参画促進

- ・道の駅は、地域振興施設としての役割を担うことが目的の一つであり、地域住民や地元事業者らとの協働が不可欠です。
- ・道の駅の事業に対し、地域住民や地元事業者の積極的な参画を促進することで、道の駅に対する愛着の醸成とともに、持続可能な運営体制の構築を図っていきます。